

## 第8回 東日本大震災支援活動 概括報告

# 持続する情報支援

3・11から、1年9か月。被災地の状況は、各メディアが報じている通り、生活の基礎をなす住宅問題から瓦礫処理、新たな町づくり、雇用、産業復興などに至るあらゆる面で停滞が続いている。このような状況の中、JBS日本福祉放送は、「持続する情報支援」を期して、8回目の支援活動を実施した。

### 被災地の情報支援

#### ボランティアがサポート

この冬も、12月15日から17日の3日間、岩手県沿岸部の宮古市に出向いた。昨年も同じ時期に出向いたが、こころなしがこの冬の風の方がより冷たく感じられた。

岩手県に出向くのは、都合8回目。今回は「宮古音声訳の会」20周年記念行事への協力要請に基づき、宮古市立図書館で「音訳研修会」を音訳指導の第一人者、恵美三紀子さんの協力を得て、「赤い羽根」の助成事業として実施。被災地の視覚障害被災者を被災地の音訳ボランティアが「目のかわり」となって持続的にサポートして行く仕組みを作りたいという思いを込めながら、地元広報紙の読み方、図表・写真の説明法など、恵美三紀子さ

んの指導のもとに行った。

こうして音訳のより高みに向けてスキルアップを続ける「宮古音声訳の会」の皆さんによって音訳された宮古市広報は、地元ラジオ局「宮古さいがいエフエム」で放送されており、もちろん視覚障害者もリスナー。



「宮古音声訳の会」  
20周年記念行事で行  
われた音訳研修会の  
様子。

#### 「ラジオが一番」

16日夕方、宮古市在住の視覚障害者4人(50歳代2人、60歳代1人、80歳代1人)と、3・11の経験に基づく情報支援の在り方について意見を交換するひと時を持った。インターネットや



情報支援の大切さに関  
する視覚障害被災者と  
の話し合いの様子。

録音図書も利用するがやはり「ラジオが一番」、と4人は異口同音にラジオの必要性を語った。実は、厚生労働省のデータ(平成18年調査)では、視覚障害者の情報入手法としてテレビが最も利用される、とある。確かに、阪神大震災時の調査でも同様の結果が出ている。しかし、3・11から3ヶ月後に行われた日本盲人福祉委員会の調査では、希望必需品としてラジオが60%を占めていた。今回、意見交換会に出席された4人も、「ラジオが一番」と言い、更にこう続けた。大震災の時は極端な情報不足に陥った。今は、普段から(ラジオの)地域ニュースや地震関連ニュースを意識して聞いている、と。

災害時はもちろん普段からラジオがいかに重要か、あらためて意識する機会となった。JBSとしても、まず視覚障害者向け専用ラジオの必要性を広く社会に理解してもらい、いっそう普及に努め、見えない・見にくい人びとや福祉関係者の防災・減災に貢献したい。

## 生活は…

一口に復興と言っても、復興推進のためには、複雑に利害が絡み合う状況下でさまざまな要件を満たして行く必要がある。それは決して容易ではなく、復興の停滞は政治や行政の責任だけとは言いい切れない要素も孕んでいる。

いろいろあるが、「生活」の拠点は何と云っても住宅である。住宅が就労等の社会生活を含めた「生活」の基礎をなす。

かつて世界一の防潮堤を誇った田老町の人びとが仮住まいをしているグリーンピア三陸みやこの仮設住宅。1年前の冬は、被災者は仮住まいの場所をとりあえず得られ、将来への希望すら抱けた、と思われる。広い敷地で歓声を上げながら棒を使って松ぼっくりを落とし、まもなく正月に備える楽しい光景すら見られた。

2度目の厳しい冬を迎えた町から遠く離れた山野のグリーンピア三陸みやこの仮設住宅。交通の便の良い所や親戚を頼って引っ越して行く人が増え、特に話し相手がなくなったお年寄りが心配だ、と語る住民。

「生活」の拠点としての安心が得られない、むしろ不安の溜息が漂う仮設住宅。障害者や高齢者にかぎらず、仮住まいの誰にも、心のケアが必要なように感じられる。



グリーンピア三陸みやこの仮設住宅の様子。

## 第8回 東日本大震災支援活動

## ご支援に感謝

「音訳研修会」は、赤い羽根の助成事業として、意見交換会と仮設住宅・沿岸部の復興状況の視察・調査は日本ゴルフ協会近畿地区研修会（代表 西田徹朗）のご支援で実施できました。記して、感謝の意を表します。

なお数カ月の準備の上、現地に赴いたスタッフは、金田直樹（JBS）と神戸アイライト協会がご派遣くださった常盤正勝氏のふたり。寒い中、ご苦労さまでした。

## 自宅から生放送

現在は、正確には生放送ではなく、生風時差放送にすぎない。が、第1段階の実験としては、まずまずというところでしょう。

11月は、実験参加者は相田啓子さん一人でしたが、12月に入って鈴木光代さん、宮川恭一さん、井上美紀子さんが参加され、4人になった。1月には5人になる見込み。興味のある方は、技術担当（川原）までご連絡ください。

## 音訳者のためのPCミニ講座

初心者からそこそこの使い手まで、OK。ボランティア活動が一段とおもしろくなる

こと請け合い。あなたもイッパシのパソコン使い手に！

1月第2火曜日と第3水曜日の午後2時から4時、大阪スタジオで。

## ミスターマイクの一口アドバイス

## トークバックは生放送の花

「ヘッドホーンで指摘されるとドキッとするのでメモで回して」と、新人ボランティアの方から、ミキサーへ依頼があったとか。マイクに向かっていたり人とミキサーやディレクターがやりとりをしながら番組を進行するこの仕組みは、トークバックと言います。トークバックは、いわば生放送の花なのです。そこが録音図書づくりと違う点のひとつでしょう。トークバックに慣れることは、JBSの場合は必須で避けて通れません。早く慣れてください。

編集後記 この1年、何が実行できたのか、自らに問うてみると思いは山ほどあった筈なのに、思い当たる成果はいかにも少ない！さはさりながら、悔いても詮無い事。また、来年に思いを馳せ、ご支援くださった方々にただただ感謝申し上げます。

1年間、ほんとうにお世話になりました。みなさんに支えられながら、JBSはこの1年間も、「見えない・見にくい人びと」の「目のかわり」役として情報支援を持続することができました。ありがとうございました。よいお年を。（川越）